

はんごの文字の話

人文研の蔵書と蔵書印

講師 印譜の会

矢木 毅 永田 知之 古勝 隆一

第1回

8月26日(木) 『手取り足取り
—基本の部首—』
入門編 (矢木)

第2回

9月2日(木) 『蔵書印でみる人文研の歴史』
初級編 (矢木)

第3回

9月9日(木) 『蔵書家の群像 (1)
—旅する書物—』
中級編 (永田)

第4回

9月16日(木) 『蔵書家の群像 (2)
—大きな印と小さな印—』
上級編 (古勝)

【時間】 各回 18:00~19:30

【場所】 ※オンライン開催に切り替えます。
※申し込みは締め切りました。

事前申し込み制 (参加無料)



- 各回とも定員20名です。
- 学生・一般の方、各回通してご参加いただける方を優先して受け付けます。
- 下記の「Googleフォーム」からお申し込みください。(左のQRコードも同じ)
<https://forms.gle/4b7gF96giJMDAbR7>

新型コロナウイルス感染対策を施したうえで、対面形式で実施します。やむをえずオンラインに切り替える場合もございますので、研究所ホームページの「お知らせ」をご確認ください。

主催 京都大学人文科学研究所

お問い合わせ 京都大学人文科学研究所 総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-6902 (月~金 9:00~17:00)

mail: z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp



<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

はんこの文字の話

人文研の蔵書と蔵書印

京都大学人文科学研究所（人文研）においては、その前身のひとつである旧東方文化学院京都研究所の創設（1929年）以来、中国古典籍（漢籍）の収集・整理・公開に努めてまいりました。そのなかには中国の名のある蔵書家たちの旧蔵書（彼らの蔵書印が捺されているもの）も少なくありません。蔵書印はたいてい中国の古い書体（篆書）で彫られているため、一般には取りつきにくいところもありますが、もともと絵文字（象形文字）から発達したものですので、すこし学習すれば、どなたにでも直感的に理解できる面白みがあります。

この連続セミナーでは、蔵書印の実例に即して一字一字の解説を行うとともに、人文研における蔵書形成の歴史や旧蔵者たちの横顔についても紹介します。

本セミナーが、近代日本における中国との文化交流の歴史をふりかえり、これからの東アジア世界における日本のあり方を展望する一つの契機ともなることを期待します。

講師紹介

印譜の会

人文研所蔵漢籍に捺された蔵書印の収集・整理・公開を進めている有志の会です。



矢木 毅

やぎ たけし

京都大学人文科学研究所 教授
朝鮮中世近世史専攻

著書

『韓国の世界遺産 宗廟』
(臨川書店 2016年) ほか



永田 知之

ながた ともゆき

京都大学人文科学研究所附属
東アジア人文学情報学研究センター
准教授

中国古典文学専攻

著書

『理論と批評：古典中国の
文学思潮』(臨川書店 2019年) ほか



古勝 隆一

こがち りゅういち

京都大学人文科学研究所 教授
中国古典学専攻

著書

『目録学の誕生：
劉向が生んだ書物文化』
(臨川書店 2019年) ほか



京都大学人文科学研究所

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>